通算第１２７号

防衛研究所ニュース　２００８年１２月号

“NIDS NEWS”

防衛研究所企画室編集（03−3713−5912）

・・・・・２００８年１１月の主な出来事・・・・・

《東南アジア諸国との防衛研究交流》

１１月５日から７日にかけて、「東南アジア諸国の対中政策」をテーマとし、東南アジア諸国との研究交流が実施されました。この交流の目的は、東南アジア諸国の安全保障及び防衛問題の研究者を招聘し、わが国と東南アジア諸国との相互理解の増進と研究の充実を図ることにあります。

基調講演を行うヘルナンデス女史

ヘルナンデス・戦略開発研究所理事長（元フィリピン大統領顧問）が「東南アジアと中国との関係」と題し、５日に基調講演を行いました。この後、スクマ・インドネシア戦略国際問題研究センター副所長、タン・ラジャラトナム国際問題研究所（シンガポール）教授、チュラチープ・タマサート大学（タイ）教授、モラーダ・フィリピン大学政治学教授、リョー・ラジャラトナム国際問題研究所教授、庄司防研研究部第３研究室教官から、東南アジア各国の対中政策等について、報告が行われました。最終日には、これら報告のフォローアップも実施されました。

《中国国防大学研修団の来訪》

王朝田副校長（右）と新保所長

１１月１４日､中国人民解放軍国防大学の王朝田副校長（陸軍中将）を団長とする研修団３４名が防衛研究所に来訪しました。同研修団は平成１２年以降、ほぼ毎年防衛研究所を訪問しており、今回が８回目の来訪になります。

一行は、所長を表敬し、ブリーフィングを受けた後、防研側と意見交換を行いました。

《日米韓防衛研究交流》

１１月１８日から翌日にかけ、ジェイムズ・プリシュタップ主任研究官をはじめとする米国国防大学国家戦略研究所（ＩＮＳＳ）の４名の研究者と、金釦燮（キム・クソプ）院長など韓国国防研究院（ＫＩＤＡ）の５名の研究者が防研に来訪し、防研側との間に研究交流が実施されました。

韓国側研究者の報告

初日は「中国の台頭をどう見るか」というテーマのもと、防研研究者と韓国国防研究院研究者との間で発表、討論が行われました。

日米韓３国の出席者

１９日には「対中政策における日米韓安保協力」、「北朝鮮問題と日米韓安保協力」のテーマのもと、防研研究者と米国国防大学国家戦略研究所研究者の間で発表、討議が行われた後、日米韓安全保障協力について総括討議がなされました。

２０日に、ＩＮＳＳ、ＫＩＤＡ、防研の研究者は、交流の場を内部部局に移しました。前日までの交流に関するフォローアップの後、「２

１世紀アジアにおける安全保障上の課題と日米同盟の将来」というテーマでセッションが設けられ、米国新政権の対アジア政策について米国国防大学国家戦略研究所側がブリーフィングを行った後、自由討議・意見交換も実施されました。

《第５６期一般課程》

１１月は、「戦略理論」、「米国の安全保障政策」、「法と安全保障」、「経済と安全保障」、「戦争史原論」及び「冷戦と日本の安全保障政策」の各講座のまとめを実施し第１学期を修了、２３日より第２学期が始まりました。

第２学期は、「軍備管理・軍縮・不拡散」、「東アジアの安全保障１」、「紛争と国際社会」、「地域安全保障１」及び「日本の防衛」の各講座を実施します。

また１９日（水）に、朝霞地区（東部方面総監部、中央即応集団司令部等）において、現地研修を実施しました。

《新保防研所長の米国出張》

新保防研所長は、去る１０月１４日からアメリカへ出張し、同日、防研のカウンターパートである米国国防大学国家安全保障研究所を訪問し、クローニン所長をはじめ関係者と懇談しました。

新保所長は、つづく１５日にはワシントンD.Cにおいて開催されたシンポジウム「日米戦略対話」に出席しました。このシンポジウムは、新米国安全保障研究所 「Center for a New American Security」 の主催により実施されたものです。

新保所長は、このシンポジウムにおいて、米軍再編、ミサイル防衛、日米両国の任務と役割について報告を行いました。この後、当シンポジウムでは、地球温暖化の影響を含む幅広い安全保障上の課題について議論がなされました。

当シンポジウムには、日本側から藤崎駐米大使、佐々江外務審議官などが、また、米国側からは、キャンベル元国防次官補代理、デミング元駐チュニジア米国大使、ジェフリー・ベイダー元国務次官補代理や有力なシンクタンクに所属する研究者が参加しています。

・・・・第９９回　「史料公開ニュース」・・・・

このコーナーでは、図書館史料室所蔵史料の中の公開史料を紹介しています。今月は、日露戦争中の「松山俘虜収容関連写真」を紹介します。

公開史料は､次のとおりです。

「松山俘虜収容関連写真（１）～（６）」
（大本営陸軍部写真班　明治３７～３８年頃）

上記写真は、防衛庁市ヶ谷移転時の倉庫整理中に発見されたものの一部であり、日露戦争当時の日本がロシア人捕虜をいかに処遇したかを知る上で貴重な史料です。

詳しくは、防衛研究所（史料閲覧室）のウェブサイト＜www.nids.go.jp＞、第９９回「史料公開ニュース」をご覧下さい。

※　記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。
なお、記事の無断引用はお断りします。
防衛研究所企画室
専用線：８－６７－６５２２、６５８８
外　線：０３－３７１３－５９１２
ＦＡＸ：０３－３７１３－６１４９
※　防衛研究所ウェブサイト：http://www.nids.go.jp